

立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金
企画研究プロジェクトI(教員・学生参加型) 2024年度研究成果報告書

プロジェクト 学生代表者	学科・学年	氏名
	福祉学科・4年	節丸 真愛
指導教員	所属・職名	氏名
	コミュニティ福祉学部・特別専任教授	松山 真
研究課題	1day ゴールボールキャンプ in RIKKYO	
研究年度	2024年度	
プロジェクト 分担者	鶴岡美怜(コミュニティ政策学科・3年) ※当日のイベント運営に際しての実行委員としては他3名の学生にも協力いただきました。 (矢端未結さん・齋藤花凜さん・星梢さん)	

プロジェクトの内容及び成果の概要

【プロジェクト概要】

本プロジェクトでは、2024年12月2日、新座キャンパスで「RIKKYO ゴールボール架け橋プロジェクト」と第したイベントを企画・開催しました。当日はパリパラリンピック金メダリストを含む現・元ゴールボール日本代表の男女選手5名、スタッフ1名にご協力いただき、ゴールボール体験会(約3時間半)と交流会(約1時間半)を実施しました。

【開催の経緯と準備の過程】

ゴールボールは、3人対3人で目隠しをして対戦し、鈴が入ったボールを投げ合いながら音を頼りに攻防するパラスポーツです。私は高校時代にこの競技に出会い、大学1~3年次は日本代表強化指定選手として活動させていただき、かけがえのない仲間と経験を得てきました。まだマイナーなこの競技をもっと広げていきたい、障害の有無を超えてより多くの人に楽しんでもらいたいという思いが、このプロジェクトの原点になっています。

企画のオリジナリティとして、特にこだわった点が2つあります。1つ目は、「ルールや大まかな競技特性を“知る”だけにとどまらず、体験を満喫してチームで勝利を目指してみるからこそ感じられるゴールボールの奥深さを伝えたい」ということです。工夫のひとつとしてミニ大会の形で体験を進めることにしました。2つ目は、「“ゴールボールに熱を注ぐ選手たち×ほぼ初めて触れる立教生”の双方向の交流を生み出したい、そしてお互いの視点の掛け算でゴールボールの価値と未来を考えられる機会にしたい」ということです。体験後に交流会を設け、どんなコンテンツがあれば楽しく深く交流できそうかシミュレーションもしながら考えました。

【成果】

(1) 当日の様子

①体験会：1年生から大学院生まで幅広い学年から約20名が参加してくれました。アイスブレイクから和やかな雰囲気に包まれ、基本的なルールと動きの説明、練習を終えた後、4チームに分かれてミニ大会（総当たり戦+決勝トーナメントで各チーム計5試合）を行いました。各チームにはゲスト選手がコーチ役として入り、メンバーが思いきりプレーして楽しみ尽くせるように優しくサポートしてくださいました。試合間にはゲスト選手によるミニ講座として、ゲームで鍵を握るチーム内コミュニケーションや攻撃の組み立て方、移動攻撃・フェイク・速攻といったゴールボール特有の戦術を伝授していただき、教わった戦術に次の試合で果敢に挑戦する参加者の姿も印象的でした。ミニ大会後はゲスト選手たちによるエキシビジョンマッチを観戦し、迫力溢れるプレーに驚きと感動の声が絶えませんでした。

②交流会：教室に移動し、ゲスト選手への質問会や彼らも交えてのグループワークを行いました。グループワークの後半では「もっと多くの方がゴールボールをプレー・観戦して楽しむためには？」をテーマにアイデアコンテストも行い、それぞれのアイデアに選手からのフィードバックもいただきました。ラテラルマーケティングの視点を導入として紹介しながら、完璧や正解を追い求めるのではなく立教生とゲスト選手の視点を掛け合わせるからこそ生み出せる自由なアイデアを目指してもらい、新鮮でワクワクする提案ばかりでした。イベント全体を通して、あたたかい雰囲気で包まれており、参加者の心から楽しんでくれている様子が見え、印象深く、全員で濃密な時間を共有できたと実感しています。

(2) 運営を通じた学びと今後への接続

準備の過程を振り返ると、ゲストの皆様をはじめとしたゴールボール関係者や学内の各部署の方々など、学生同士にとどまらず様々な方と連携させていただいたことが新鮮な経験でした。さらに、自ら立案した企画で、どのように仲間の力を引き出していくかやビジョンの共有、役割分担の仕方など、自分のリーダーシップに向き合いチーム協働の難しさと楽しさを改めて実感する機会になったと感じています。

また、地道な準備を丁寧に進めるからこそ、実現が見えてきてワクワクできると気がつきました。参加者募集のチラシ作成や広報活動、ゲストとの打ち合わせ、備品の準備・手配、タイムテーブルやスライドの作成、チーム分け、当日のオペレーションの整理…。さらに表彰やBGM、サプライズで流す振り返り動画の制作などクリエイティブな案が出るほど必要な準備も増えましたが、当日それらがつながっていく喜びは何にも変えがたいものでした。企画を形にしていくフローを一貫して経験できたことは大きな財産になったと感じています。この経験を通して、仲間とともに挑戦すること、「場」をデザインすること、そしてゴールボールというスポーツが大好きな自分に改めて気づくことができました。イベント後にはゲ

ストの皆様から「今後も立教大学とコラボしていきたい」とありがたいお言葉をいただきました。今回得た気づきと学びを力に、次は何ができるか。一步ずつ成長しながらこれからも挑戦していきたいと思っています。応援してくださる方、ゴールボールを通して笑顔を交わせる仲間の輪が広がっていけば本当に嬉しいです。

最後に、このプロジェクトの実施にあたり多くのご指導とご支援をいただいた先生方・コミュニティ福祉研究所の皆様、この企画に携わってくださった全ての皆様、本当にありがとうございました。

※この企画の詳細は、以下の記事でも掲載いただいています。

<https://www.rikkyo.ac.jp/closeup/campuslife/2025/mknpps0000033e7k.html>